

日米経済と市場展望

武者 陵 司 CMA

目 次

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. はじめに | 5. 景気拡大が続く米国 |
| 2. 英国のEU離脱 | 6. 利潤率と利子率の乖離 |
| 3. 日本株一人負けの背景 | 7. 日本株割安の是正 |
| 4. 危機が進行する中国 | |

1. はじめに

現在マーケットや経済は極めて大きく揺れ動いており専門家の意見も分かれているが、歴史的に底流に流れている基本的な大きなトレンドをつかむことが一番大事であると考える。トレンドの一つはグローバリゼーションであり、資本主義の規範と制度、市場経済が世界全体を極めて力強く覆い、国際分業を一段と深化させている。もう一つは情報化革命を軸とする大きな技術革命による生産性の劇的な上昇である。この二つは不可逆的な大きな流れとして力強く世の中を突き動かしている。

それは人類の発展を支え続けた二つの推進力が健在であることを意味し、明るい将来展望を正当化するものであるということを念頭に置きながら、少し幅広く4点の論点についてお話をしていきたい。第一に、日本株が一人負けしているという現在のマーケットをどう考えるかという現実的な問題意識である。第二に、今グローバルな混迷、乱気流の源泉となっている二つの相反する力、中国のネガティブな動きと反対に米国で起こっているポジティブな動きである。第三に、歴史上経験したことのない利潤率と利子率の二極分化、乖離に対する洞察である。そして最後に、こうした



武者 陵司 (むしゃ りょうじ)

(株)武者リサーチ 代表、ドイツ証券(株)アドバイザー、ドイチェ・アセット・マネジメント(株)アドバイザー。1973年横浜国立大学経済学部卒業後、大和証券(株)に入社。88年～93年ニューヨーク駐在、(株)大和総研米国でチーフアナリスト、米国のマクロ・ミクロ市場を調査。97年ドイツ証券(株)調査部長兼チーフストラテジスト、05年ドイツ証券(株)副会長を経て、09年(株)武者リサーチを設立。著書に『アメリカ 蘇生する資本主義』(93年東洋経済新報社)、『新帝国主義論』(07年同左)、『「失われた20年」の終わり』(11年同左)、『超金融緩和の時代』(13年日本実業出版社)等がある。

(本稿は2016年7月4日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である。)